

2023年夏季手当

収入動向

6月2日、本部は交渉を行いました。以下、報告します。

営業部より、営業成績（2023年4月）を説明。

「収入動向」

新型コロナウイルス感染症の影響は緩和傾向にあり、インバウンドの増加等により人流が活発化してきたものの、原材料費高騰に伴う物価上昇による需要低迷等の影響は続いており、輸送実績は計画・前年共に下回った。[対計画△720百万円(93.3%)]

・コンテナ（対計画）

食料工業品は、昨年来の各種製品値上げによる販売不振や清涼飲料水等のブロック自給率向上により減送となり、△167百万円となった。農産品・青果物は、米の需要減に加えて、北海道産玉葱が計画に至らず、△61百万円となった。積合せ貨物は、ダイヤ改正から計画されていたブロック販売の開始遅れや、BCPによる他モード併用と企業間物流低迷により、△55百万円となった。化学工業品及び化学薬品は、物価高騰等による需要の低迷に伴う生産減の影響を受け、それぞれ△53百万円、△47百万円となった。コンテナ全体では、対計画△655百万円（93.3%）となった。

・車扱（対計画）

石油は、揮発油の需要は回復傾向であるものの、平年より気温が高く推移した（平均気温平年差：関東甲信地方+1.8℃、東北太平洋側+2.3℃）ことから灯油を中心に消費が低迷し計画を下回った。車扱全体では、対計画△66百万円（93.2%）となった。

・コンテナ（対前年）

食料工業品は、昨年来の値上げの影響等により清涼飲料水を中心に消費が低調に推移し、△112百万円となった。化学薬品及び化学工業品は、物価高騰等による需要の低迷に伴う生産減の影響を受け、それぞれ△68百万円、△43百万円となった。紙・パルプは、紙需要減に伴う生産減に加えて、一部顧客の設備不具合により減送となり、△41百万円となった。一方、農産品・青果物は、北海道及び九州地区で玉葱の収穫が順調であったことから作柄不良の影響を受けた前年を上回り、+85百万円となった。コンテナ全体では、対前年△96百万円（94.2%）となった。

・車扱（対前年）

石灰石は、着側顧客で前年に大規模定期修繕を行っていたため上回ったほか、セメントは、藤原工場での優先生産により好調となった。一方、石油は、揮発油の需要は回復傾向であるものの、前年に比べ気温が高く推移した（平均気温前年差：関東甲信地方+0.4℃、東北太平洋側+0.9℃）ため、灯油を中心に前年を下回った。車扱全体では、対前年△25百万円（96.1%）となった。

（営業部）

組合・2022年度決算は非常に厳しい結果となったが真摯に受けとめ、これからが大事になっていくが、今年度に入っても経営状況が上向かず依然として厳しい状況が続いている。コロナの影響と簡単に片付けることは出来ないと思うが根本的な原因は何なのか。

会社・コロナ禍の影響や、エネルギー・原材料・物価高騰による消費の低迷が原因として考えられる。

組合・収入が上がらない原因は、JR貨物の商品作りが荷主やお客様の要望に応えきれてないと率直に思うが、どうなのか。

会社・ご指摘は素直に受け止める。より良い商品を作りお客様に提供したい。

組合・4月号のぼるてに、2023年度事業計画鉄道事業部門の収支改善として「滞在需要の掘り起こしと商品強化による収支改善」とあるが、具体的に中身を教えてください

会社・2024年問題を迎えるにあたり、500km前後の中距離帯のニーズが見込まれる。これを取りこぼすことなく営業活動を行っていく。その際、柔軟な運賃設定等も取り組み、積載率を向上させ収支改善を図りたい。

組合・2024問題は非常に関心が高く、JR貨物にとっても大きなチャンスであるが、旅客会社とのダイヤ調整で荷主の要望に応えきれないことも多くあり、JR貨物の要望が少しでも通るよう、国・旅客会社・JR貨物との三者協議等を行い、前進を図っているのか。

会社・関係する機関と連携した協議を行っている。

組合・今年度に入り、グループ会社の状況はどうか。

会社・まだ始まったばかりであり、各社目標に向かって頑張っている。

組合・経費節減に取り組んでいくと聞くと聞くと、具体的にどのようなことを取り組んでいるのか。

会社・設備投資について優先順位をつけ、各項目の精査していきたい。

組合・輸送コストが上がっていると思うが、運賃改定は考えているのか。

会社・個別案件での運賃改定交渉はあるが、基本、運賃改定は考えていない。

組合・2022年度の決算は、東日本大震災・リーマンショックが起きた年度よりも悪い数値となった。コロナが始まった2020年度から右肩下がりが続き、回復する気配が一向に見られない。ピンチをチャンスにという言葉があるが、JR貨物のブランド力を失わないためにも、2023年度は非常に重要な年度となる。最後に営業部の強い意気込みを教えてください。

会社・新年度になっても厳しい状況が続いている。一方でコロナ禍も一区切りつき、世の中は人流も活発に動き出してきた。2024年問題やカーボンニュートラルといった追い風もある。こういった風をしっかりと捉え、取りこぼしの無いように営業活動を進め、結果を出していきたい。

組合・これからも相当厳しい営業活動が続くと思うが、この窮地を打破するべく鋭意努力して頂きたい。私達は安全安定輸送に努めていく。

会社・よろしく願います。

（人事部）

組合・会社の状況は厳しいと理解するが、組合員は昼夜を問わず懸命に業務を遂行している。

2023春闘ではベア実施となったが、物価上昇が激しく生活改善レベルには全く届いていない。毎月の家計は逼迫し、期末手当は毎月のマイナスを補う、言わば「嗜好品費ではなく生活費の一部」となっている。

会社の状況が厳しい時こそ経営陣の手腕が試され、将来に向け安心して働ける職場づくりを展開していくのが経営陣の責務である。今年度も2ヶ月が経過し、いまだに回復の傾向が見えてこないが、JR貨物に期待し希望に満ち溢れた新入社員が初めて支給される期末手当に大きな関心を寄せている。期待を裏切れば、JR貨物を離れることも考えられ、会社にとっても大きな損害になる。

JR貨物が飛躍するためには、若い力が必要不可欠なことは重々承知していると思うが、JR貨物のブランド力を上げるためにも、次回の交渉（会社の考え）では、誠意ある考えを強く求める。

会社・ここ数年にない厳しい状況であることは理解していただきたい。貴組合の主張を受け止め、次回まで社内議論を重ねたい。

組合・JR貨物への期待は大きい。期待に応えるためには労使が一体となって取り組まなければならない。厳しい状況は理解しているが、組合員の生活もかなり追い込まれており、真摯な対応をお願いしたい。

会社・主張を受け止め、社内議論を重ねていきたい。

組合・次回交渉（会社の考え）は、6月9日でよいか。

会社・その通りである。

以 上